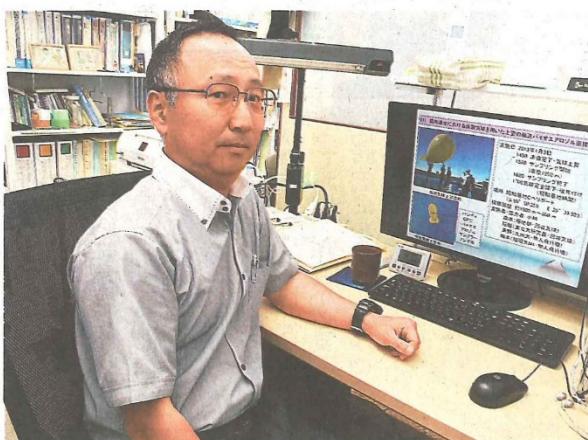


## 小林さん(弘大教授)南極へ

第60次観測隊 上空の微生物調査



政府の南極地域観測統合  
推進本部は22日、11月に出  
発する第60次観測隊の実施  
計画や隊員を決めた。弘前

大学理工学研究科教授の小  
林史尚さん(49)が隊員とし  
ては初めて参加し、南極上  
空を浮遊する微生物の観測

第60次南極地域観測隊の隊  
員に決まった小林さん

調査に臨む。

小林さんが研究するのは、  
大気に含まれるバイオ  
エアロゾル(生物粒子)。  
金沢大学准教授だった20  
12年、同行者として第54  
次観測隊に参加し、係留気  
球を使って高度千メートルの  
浮遊微生物を採集するなど  
した。

今回は、他の研究者4  
人とともに、昭和基地から  
20キロほど離れた航空機観測  
拠点に滞在予定。無人機を使  
って、より高度が高く、  
地表の影響を受けにくい自  
由対流圏の大気バイオエア

ロゾルを調査する。  
「大陸間を移動する微生  
物の存在を証明し、生態系

への影響を明らかにした  
い」と小林さん。南極での  
観測データは貴重で、気象  
学や生物学、医学などへの  
発展も期待されるという。  
「生きた状態の微生物を採  
集したい。南極という過酷  
な環境で観測できれば、弘  
前での観測にも応用できる  
はずだ」とも語る。

第60次観測隊は11月下旬  
に空路で出発、オーストラ  
リアで南極観測船「しらせ」  
に乗り込み、昭和基地へ向  
かう。隊員は、既に隊長に  
決まっていた堤雅基・国立  
極地研究所教授(51)と、副

隊長の原田尚美・海洋研究  
開発機構地球環境観測研究  
開発センター長代理(51)。

弘大理学部卒(ら69人)。今  
後追加し、71人編成となる。  
(太田佳希)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が  
利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp